

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径

No.62

12月号

2013 December

今月のてとば

手塩にかける

「手塩」とは、食膳に置かれた塩のこと。自分で手にとって塩をかけ、自分好みの味付けができるようにするためです。このことから、自ら直接世話をして大切に育てることを言います。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

教育遺産の伝達・継承

- 教育遺産には「有形のもの」と「無形のもの」があります。無形のものは人の移動とともに流出し、やがて消滅していく可能性があります。
- 教育の優れた指導技術を次の世代に伝達・継承していくためには、そのための仕組みと取り組みを意図的につくることが求められます。

今月の記念日

漢字の日(12月12日)

漢字検定で知られる日本漢字能力検定協会が平成7年(1995年)に制定しました。この日は「1(いい)2(じ)1(いち)2(じ)」で、「いい字一字」の語呂合わせです。

教育の「有形な文化遺産」とは

「教育遺産」とはあまり耳慣れない言葉ですが、これは教育における優れた遺産のことです。これには二つの意味合いがあります。

一つは、学校建築や施設、教材や教具など、有形の教育遺産です。使用されなくなった学校やその一部は、多くはありませんが、住民や先生方の保存活動、教育委員会の取り組みなどあって、地域の「文化財」として大切に残されています。かつて使われていた教材や教科書などは、郷土資料館や教育センターなどに保管、展示されているところもあります。こうした不断の努力によって、次の世代に引き継いでいくことができます。

いま一つは、こうした目に見える有形のものではなく、具体的な形として見えない無形の教育遺産です。例えば、子どものつまずきを教材として生かしながら学級全体の子どもの考えを高めていく技術、子どもから多様な考えを引き出し、それらを整理しながら考えを練り上げていく技術、子どもの思考をうながし理解を深めるために、もう一つの教材として板書を機能させる技術など、いわば教師の優れた指導技術です。

多人数による多様な子どもたちで構成されている学級集団を一人の先生が統率し、一つの方向に導いていく学級経営の進め方は、日本の教師の優れた指導力だと言われてきました。

こうした教育における無形の遺産は、日本の教師が長年の研修と経験の中で培ってきたものです。これらの多くが、ベテランと言われる先生方の中に蓄積されています。ところが、地域によっては大量退職期を迎え、こうした先生方がいま学校現場から去っていく現象が見られます。

教育技術を次世代につなげたい

ベテランと言われる先生方がこれまで培ってきた無形の優れた教育遺産を、次の世代にどう伝達し継承していくか。このことは、教育界だけでなく、多くの企業や行政機関などにおいても課題になっています。大量退職は大量採用と連動し、組織の質的低下を招くからです。教員の年齢構成を見ると、高齢化が進む一方で、最近の大量採用によって若い先生が増え、大きく二極化している傾向が見られます。両者には意識のギャップが生じているのも事実のようです。

教育界においては、スーパーティーチャー制度をつくって若い先生に教育

や授業づくりのあり方を伝授する取り組みも始まっています。ベテラン教員の優れた指導技術を若い先生に意図的に伝達していく仕組みをつくり、日常的に「教える」と「教わる」の関係を構築しないと、若い先生方の指導技術が早急に高まらないばかりか、優れた技術がやがて学校現場から消えていくこととなります。

ベテランの先生が習得している技術は本人の努力によるものだけでなく、先輩の先生から教えてもらったものもたくさんあるはずで、それらを次の世代に伝えていく義務があります。

各学校においては、優れた指導技術を互いに学び合うとともに、若い先生方に意図的に伝達・継承する場や機会が必要です。その一つが校内研修を充実させることです。若い先生を育てる場として、校内研修会をどう運営するか。校内のリーダーに求められている課題だと言えます。

実施に当たっては、若い先生方が抱えている指導上の悩みや課題に配慮することが大切です。伝える側の一方的な思いだけでは、たとえ「伝える」ことはできても、伝わらない結果になりますので、「伝わる」ための工夫が求められます。伝達・継承という営みは、一方的なものではなく、相手のニーズとの関係性の中で成立するものです。

木を見て森を見ず

私たちは、人を観察するとき、一般に次のような傾向があると言います。優れたところよりも、課題や問題点など良くないところに目が向きがちです。また、その人の心の奥など内面を深く理解するというよりも、表面的な目に見えるところを見がちです。全体をとらえるよりも、一つの部分を見て「この子どもは○○○だ」と判断したり決めつけたりしがちです。

「木を見て森を見ず」という言葉があります。一本一本の木ばかり見ていて、森全体を見ていないという意味です。物事や人間など対象の細部のみを観察したり理解したりして、全体の姿を見ていないことを戒めているのです。森はさまざまな木から成り立っています。森を子どもの全体像とすると、森を構成している木は、子どもの得意分野や課題などさまざまな側面の具体的な姿と言えます。

子どもを観察するとき、一人の人間としてどう成長・発達しているかという全体像をとらえる視点と、具体的な部分の進歩の状況をとらえる視点の、二つを併せもつことが大切です。木だけを見ていると、誤った理解や認識や判断に陥ることがあります。

“「木を見て森を見ず」にならないように”というものの見方や考え方は、子どもを観察するときだけでなく、他のさまざまな現象や課題を捉える際にも生かすことができる重要な原則です。



「子ども」と「子供」の表記

文部科学省は、今年の6月下旬ごろからこれまでの「子ども」の表記を「子供」に変えました。文科省が編集している『初等教育資料』などではすでに「子供」に統一されています。

これまで「子ども」「子供」「こども」とさまざまな表記が使われており、必ずしも統一されてきませんでした。公の文書においてもさまざまな表記が混在しています。例えば「認定こども園」という表記がある一方で、「子ども・子育て支援法」という表記もあります。表記に関して定まった規定が無かったためです。

「子供」という表記に対して、「供」という文字から「供え物」「お供する」などを連想し、子どもの人権を損なうのではないかという指摘がありました。ここに「子ども」表記になった一つの背景があります。一方、「子ども」表記は、漢字と平仮名の交(混)ぜ書きだと問題指摘する人もいます。交ぜ書きとは、本来漢字で表記するところを一部の漢字を仮名で書き表すことをいいます。

表記を変えたことやその理由は、文科省から説明されていません。今後、教育委員会や学校などの文書において「子ども」表記が改められるかもしれません。本「教育の小径」では、これからも、これまで慣れ親しんできた「子ども」と表記することにします。

コラム 北 俊夫の「3.11」体験談(2)

伊勢湾上空で旋回

長崎空港を定刻の午後2時40分に飛び立った飛行機(ANA3738便)は、その後順調に飛行を始めました。離陸して数分後に、東日本で巨大地震が発生したことは知るよしもありませんでした。周りの乗客も気づいていないようでした。機内の座席には、ラジオなどを聞くイヤホンがありませんでした。ところが、飛び立って1時間ほどして、紀伊半島を通過したころです。飛行機が右に左に旋回しはじめたのです。場所は、周りの景色から伊勢湾の上空のようでした。当日は晴れわたり、中部国際空港(セントレア)が遠くに見えたように記憶しているからです。

私は「羽田空港が混雑していて、到着時刻を調整しているのだろう」ぐらいにしか思っていませんでした。これ

までも、羽田空港に着陸する飛行機が集中しているときには、伊豆諸島の上空などで旋回することがあったからです。「羽田空港にはまだ距離があるのに、どうしてこの辺りで調整するのか」と疑問をもつ程度で、それ以上のことは考えませんでした。

機長や客室乗務員からは何のアナウンスもありませんでした。機長には地震発生の知らせが伝わっていたはずですが、乗客に知らせると、騒ぎが起きたり、携帯電話などで通信したりすることを危惧したのでしょう。お客を不安にさせないため、マニュアルに基づいた対処だったのかもしれませんが。

乗客は羽田空港に到着するまで誰も地震の発生に気づいていないようでした。誰も話題にしていなかったから。当機は、20分ほど遅れて羽田空港に無事着陸しました。

INFORMATION

北先生の新聞

こんなときどうする!
学校担任の危機対応マニュアル

◎著者 北 俊夫
◎定価 998円(税込)
◎発行 株式会社文溪堂
A5判 96ページ



学級担任として こんなとき、どうしますか?

～目次より～

- 「不審者」が校舎内を歩いている
- 給食中、胸の痛みを訴えた
- 学校で物が無くなった
- 頭の毛を茶髪にしてきた
- 理科の実験中に事故が発生
- 通知表の内容についてクレームなど

編集後記

「知る者は言わず、言う者は知らず」と言うように、仕事においても知る人が多くを語らないケースがあります。経験や身体感覚で体得した技術の継承は「話して終わり」という容易なものでもありません。技術継承は「背中を見て学ぶ」のが理想ですが、本号の仕組み作りのように訊きに向かう姿勢も必要でしょう。(T記)



企画・編集: ぶんけい教育研究所
発行: 株式会社文溪堂
発行日: 2013年12月1日